

C S Rレポート

2016年6月



東宝グループのCSR

企業の使命
(mission)

「健全な娯楽を広く大衆に提供すること」

東宝グループ
のCSR方針
(vision)

東宝グループが提供する
“映画・演劇・不動産”事業を通じて
あらゆる方にエンタテインメントを楽しんで頂き
夢や感動そして喜びをお届けすること

東宝グループが CSRを実現するために重視する 3つの視点

エンタテインメント
環境

コンテンツ

ひと

エンタテインメント環境

I あらゆる方が楽しめる環境づくり

II 魅力ある街づくり

III 安全への取り組み

I あらゆる方が楽しめる環境づくり

■あらゆる方にエンタテインメントを楽しんで頂ける空間と環境を創造し、お客様の快適性と利便性の向上に率先して取り組んでいます。

「バリアフリー」上映

東宝では、1998年よりセリフや効果音などを画面上の日本語字幕で表示する「日本語字幕版」上映を開始し、その上映作品数ならびに上映館数を年々拡大していきました。現在では、ほぼ全ての配給作品にて日本語字幕を制作し、全国47都道府県を網羅した70館近い劇場で上映しております。

また、2008年からは日本語字幕と音声ガイド付きの「バリアフリー」上映にも取り組み始め、これまでに18作品、のべ120館にて実施しました。日本語字幕に加えてシーンや情景の説明を音声でも聞くことができるようになり、これまで映画館に足を運ぶことが少なかった聴覚障がい・視覚障がいのお客様にも、健常者のお客様と同じように公開中の映画を劇場の大スクリーンと大音響でお楽しみいただけるよう取り組んでいます。

「ママズクラブシアター®」

TOHOシネマズでは子育て支援の取り組みとして、2003年に全国の映画館で、通常より音量を小さくしたり、照明を明るくするなど赤ちゃん連れのお母さんお父さんに配慮した上映会を、日本で初めて実施しました。「ママズクラブシアター」と称するこの上映会は、赤ちゃんが泣いても周りに気兼ねなく映画を楽しめると好評で、今でも全国の映画館（一部の劇場を除く）で実施されています。2009年にはNPO法人日本マザーズ協会主催の「第1回マザーズセレクション大賞」にも選ばれました。



「GeM 2」導入

TOHOシネマズでは、映画館劇場内の温度とCO₂濃度を自動でコントロールする「GeM 2」を全国に導入しています。冷やしすぎ、暖めすぎを防ぎ、お客様の快適性を保ったままエネルギー消費量の削減を実現し、2013年には「第3回かながわ地球温暖化対策大賞」を受賞しました。

Ⅱ 魅力ある街づくり

■全国に所有する土地や建物の可能性を最大限に引き出す再開発に、積極的に取り組んでいます。地元住民とコミュニケーションを図りながら、周辺地域を活性化させることで、社会に貢献しています。

新宿東宝ビル



新宿東宝ビルは、ホテル・シネマコンプレックス・店舗等が複合した商業施設で、2015年4月、新宿コマ劇場の跡地にオープンしました。新宿観光特使にも任命された「ゴジラ」がビルの上から新宿の街を見下ろす姿は、街の新しいシンボルとして話題になっており、建物の象徴的なデザインや施設の集客力を活かして、歌舞伎町に新たな賑わいを創出しています。

再開発に際しては、新宿区・地元商店街振興組合と連携を取りながら、歌舞伎町浄化運動を大きく前進させ、「客引き防止条例の制定」「セントラルロード・シネシティ広場の全面改装」といった成果に結びついています。「行政や地元とも一体となって計画に関わり、敷地を越えた再整備を行っている」ことが高く評価され、2015年には公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「グッドデザイン賞」を受賞いたしました。

（受賞対象名：商業施設と通りを核とした街の賑わい創出「新宿東宝ビルとセントラルロード再整備」）

Ⅲ 安全への取り組み

■東宝が提供するエンタテインメントを安心して楽しんで頂くため、「安全の確保」は私たちにとって最重要の責任であると考えています。お客様の安全を守るため、社会に信頼される企業であるため、日ごろから安全対策に努めています。

“防災”への取り組み

昭和33年旧東京宝塚劇場で、東宝ミュージカル「アイヌの恋歌」公演中に舞台より出火し、死者・負傷者を出すという当時の東京において最大の劇場火災が発生しました。このような惨事を二度と繰り返すことが無いよう、この教訓を生かし、同年に「自衛消防隊」を創設、今では所有している各ビルで「自衛消防隊」を編成し、日比谷の本社ビルでは毎年「出初式」で安全祈願を行い、丸の内消防署の協力を得て緊急事態を想定した消防避難訓練を実施しています。また丸の内・有楽町地区の消防関連団体の幹事を務めるほか、災害時における地域との連携を強化するため「東京駅周辺防災隣組」を始めとした防災コミュニティにも加盟し、近隣とのコミュニケーションを図りながら、日々防災活動の推進に努めています。

“防犯”への取り組み

東宝は、本社エリアの丸の内・有楽町地区の警察関連団体の幹事を務めています。加盟している丸の内防犯協会が実施する、関係団体合同による街のパトロールにも参加し、ひったくりや万引きなど街頭犯罪の抑止活動にも協力しています。また、丸の内警察署と丸の内交通安全協会が主催する「春の全国交通安全運動」では、東宝芸能所属の俳優が“丸の内警察署一日署長”を務めるなど、地元企業として管轄の行政機関と協力しながら地域の安全に取り組み、治安の良い街で、安心してエンタテインメントを楽しんでいただけるよう努めています。

コンテンツ

I 「アーカイブ」への取り組み

II 幅広い世代に向けた
「映画ラインナップ」

III 「演劇文化」への貢献

I 「アーカイブ」への取り組み

■エンタテインメントとしてだけでなく、かけがえのない「文化財」として映画・演劇を未来に継承していくことは、東宝が果たすべき責任のひとつです。

劣化しやすい映画フィルムを良好な状態で保存すること・最新の技術を使って蘇らせること・一般に公開することを通じて、社会に貢献していきたいと考えています。

フィルムの保存と高画質での復元

東宝が保管する旧作のフィルムを、グループ会社である東京現像所が最新の技術と熟練した技術者の手によりデジタルシネマとして蘇らせ、映画史に残る数々の名作を今もスクリーンに映し出しています。

「ゴジラ」(1954)は最新技術で生まれ変わり、「ゴジラ60周年記念デジタルリマスター版」として2014年に全国公開されました。また、黒澤明監督作品

「赤ひげ」(1965)は、三船敏郎のベネチア国際映画祭主演男優賞受賞50周年を記念し、2015年 第72回同映画祭においてデジタルリマスター版で上映されました。そして、いよいよ「七人の侍」(1954)、「生きる」(1952)そして「浮雲」(1955)が、4Kという最高の画質で蘇ります。これらの作品は2016年秋に「午前十時の映画祭7 デジタルで蘇る永遠の名作」として全国公開される予定です。

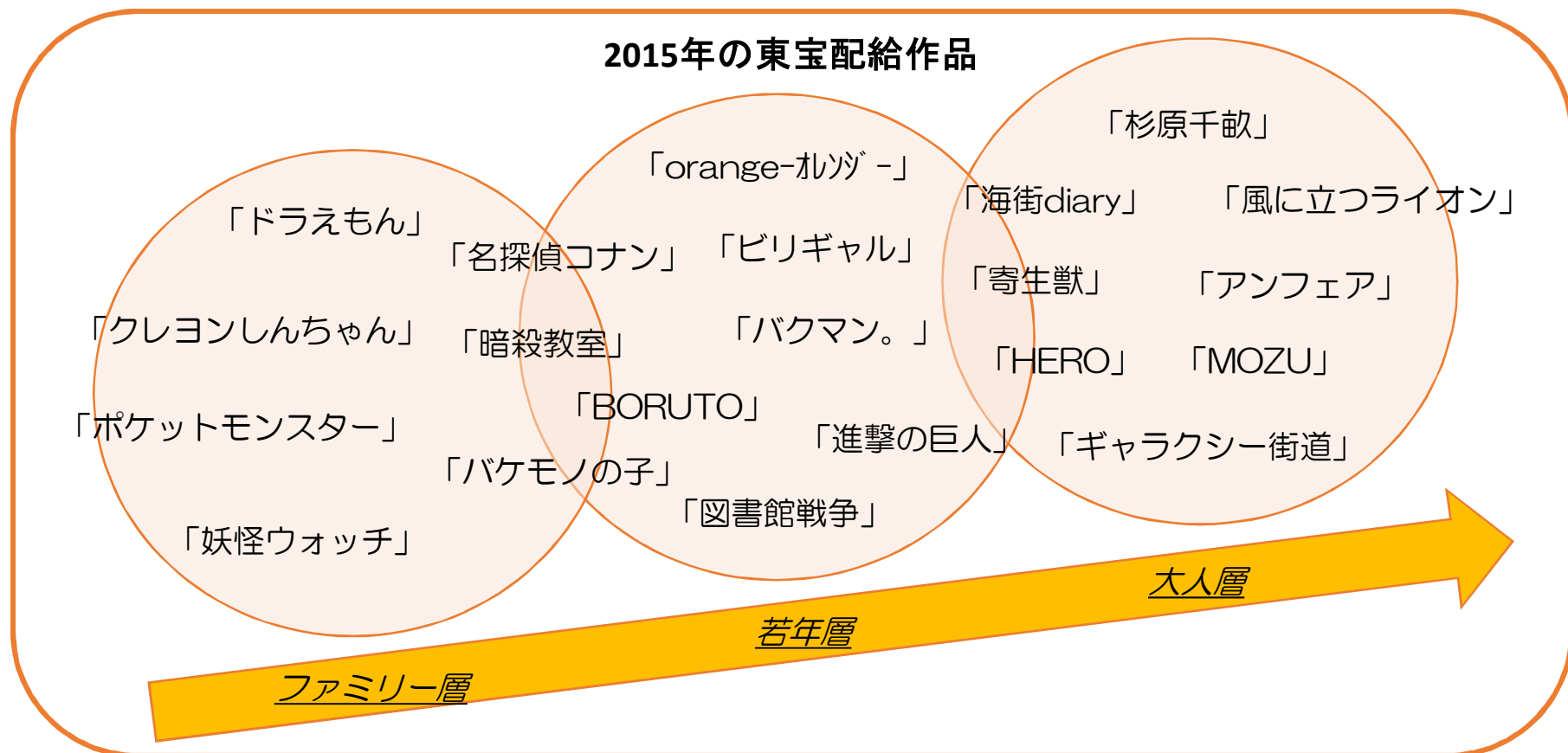
東宝は、国立機関のフィルム保管倉庫のクオリティに匹敵する最新の設備を持った専用倉庫を独自に建設し、保存に最適な環境を整備しています。倉庫は適切な温度・湿度となるようシステム管理されており、貴重な作品群の品質維持のため、定期的なメンテナンスを実施しています。このように良好な状態を保ってきたからこそ、公開から半世紀以上経った旧作フィルムも、デジタルシネマという新しい形に生まれ変わらせることが可能となっているのです。



©TOHO CO., LTD.

Ⅱ 幅広い世代に向けた「映画ラインナップ」

■東宝では、アニメ作品、ファミリー作品、TVドラマシリーズ、文芸作品など、幅広いジャンルの映画を提供しています。老若男女問わず、できるだけ多くの方に映画を楽しんでいただけるよう、バランスのとれたラインナップの編成を心掛けています。



Ⅲ 「演劇文化」への貢献

■高い芸術性を持ち、広く大衆に楽しんでもらえる『国民劇』をお届けするという創業者小林一三の理念のもと、東宝の演劇は日本演劇史に残る数々の名作を生み出し、長年に渡り日本の演劇文化を築いてきました。現在も、東京の直営劇場である「帝国劇場」「シアタークリエ」を中心に、全国各地の劇場で、様々なジャンルの作品を上演し、演劇文化の向上と発展に努めています。

上演開始年	上演作品	
1961年	『放浪記』	: 森光子から仲間由紀恵に受け継がれた、東宝演劇の代表作
1963年	『マイ・フェア・レディ』	: 日本初の「ブロードウェイ・ミュージカル」の翻訳上演
1966年	『細雪』	: 時代を彩る名女優で魅了する、谷崎潤一郎原作の四姉妹の物語
1966年	『風と共に去りぬ』	: マーガレット・ミッチェルの不朽の名作を菊田一夫の脚本により世界で初めて舞台化
1967年	『屋根の上のヴァイオリン弾き』	: 森繁久彌に始まり代々の名優に支えられた、家族愛を描くミュージカル
1969年	『ウ・マンチャの男』	: 半世紀におよび愛され続ける、人間のあるべき姿を問いかけるミュージカル
(1973年	トニー賞国際特別賞受賞	: 多年に渡る「ブロードウェイ・ミュージカル」の上演を讃えて)
1987年	『レ・ミゼラブル』	: 英語圏以外での初上演から、公演回数3,000回を超えるミュージカルの金字塔
1992年	『ミス・サイゴン』	: 大がかりな舞台セットと美しい音楽が代名詞となったメガ・ミュージカルの先駆け
2000年	『エリザベート』	: 数々の名曲と華やかな衣裳に彩られた、ウィーン発ミュージカルの傑作
2006年	『マリー・アントワネット』	: 遠藤周作の小説をもとに国内外のスタッフで協同制作した東宝オリジナル・ミュージカル
2008年	『R E N T』	: 若者たちの姿を描く、ピュリツァー賞にも輝いたロック・ミュージカル



ひ と

I 従業員の人材育成

II 「ダイバーシティ」の推進

III 次世代育成支援

I 従業員の人材育成

■夢や感動を提供していける企業であり続けるために、従業員一人一人が能力を最大限に発揮し、生き生きと活躍できることが大切だと考えています。職場環境の向上と時代に対応した多様な働き方を支援しています。

人事制度

東宝では、本業である映画・演劇に愛着を持ち、かつ、ビジネス視点を持って、多くのお客様にエンタテインメントを提供することを願う社員が集まり、モチベーション高く働いています。直近3年において、入社後3年間の離職率は0%、直近10年において、入社から10年間の社員定着率も常に95%を超えています。

人材方針は、「少数精鋭」「適材適所」です。決して多いと言えない社員に最大限に力を発揮してもらうため、様々な社員への支援を行っています。多様な事業へのキャスティング（配置）研修・公的資格取得支援等の能力開発、組織を活性化させるコミュニケーションツール、変化を恐れない柔軟な組織改革等を通じ、会社と社員が互いを高めあう人事制度となっています。

ワークライフバランス

東宝では、仕事と生活を両立させ、多様なライフスタイルを選択できるよう「フレックスタイム制度」を導入しています。育児・介護、自己啓発等「個人の時間」と「仕事の時間」の双方の調和を保ちながら充実させることに寄与しています。「ノー残業デー」を設定し、あわせて社員の生活をチャージアップしています。時間外労働の抑制にも努めており、一人あたりの平均時間外労働時間は、16.8時間となっています。

メンタルヘルスケア

東宝では、社員の「こころの健康」にも目を配っています。一定以上の長時間勤務が発生した場合には、専門医による面談や休暇の取得を義務付けています。法令義務化されたストレスチェックまたハラスメント相談窓口も整備し、社員が力を発揮しやすい職場環境の充実をはかっています。なお、定期健康診断の受診率は100%を誇っています。

Ⅱ 「ダイバーシティ」の推進

■性別、年齢、障がいの有無に関わらず、多様な人材の活躍を推進、支援するとともに、企業として持続的に成長していけるよう取り組んでいます。

女性の活躍推進

東宝では、育児休職制度として子供が満2才に達した月の月末まで休職できる制度を設けています。育児をしながら勤務する社員に対しては、子供が小学校3年生を終業するまでの間、就業時間の短縮を認めており、直近10年においては、第1子出産前後の継続就業率は100%となっています。

また、2015年12月現在の、管理職（課長級以上）に占める女性比率は17.7%となっており、2021年には20%以上にすることを目標としています。「育児と仕事の両立」をコンセプトに職場環境を整備し、今後も、女性が活躍できる取り組みに力を注いでいきたいと考えています。

障がい者雇用

TOHOシネマズでは、ノーマライゼーションの実現を目標に、障がい者雇用に力を入れて取り組んでいます。障がいによって就労の機会に恵まれない方々に広く門戸を開き、映画館のアルバイト勤務によって「業務としての接客」や「シフト勤務での自己管理」等を、実際に就労経験として積み重ね、それを通して、より自身の希望に近づくステップを踏んでいただきたいと考えています。法定の2.0%を上回っており、このような取り組みが評価され、2012年には「第1回 日本HRチャレンジ大賞」にて奨励賞を受賞いたしました。

Ⅲ 次世代育成支援

■次世代を担う若い才能を育成するため、映画・演劇などを通じた「東宝グループらしい」様々な支援活動に取り組んでいます。

「TOHOシネマズ学生映画祭」

「学生による、学生のための映画祭」というコンセプトのもと、TOHOシネマズ主催により2007年から始まった「TOHOシネマズ学生映画祭」は2016年で10回目を迎えます。映画祭のロゴや制作物、そのすべてを学生が行なっていることも、この映画祭の特徴となっています。既成概念にとらわれない学生ならではのユニークな作品を上映し、映画ファンの方にも十分見ごたえがあるものとなっており、将来の映画界を担う若手クリエイターの登竜門として注目を集めています。



「あしなが育英会」への寄付

シアタークリエ「ダディ・ロング・レッグズ」の収益金の一部を「あしなが育英会」に寄付し、恵まれない子供たちの支援活動に貢献しました。

職場体験

東宝グループ各社では、学生に職場体験の場を提供しています。TOHOシネマズでは、劇場ごとに、地域の中学生の職場体験を授業の一環として受け入れており、コンセプション業務やフロアの清掃等を実際に経験して頂いています。

Hot Topic

東宝グループ×三越伊勢丹グループ

映画「世界から猫が消えたなら」チャリティキャンペーンを実施



東宝グループと三越伊勢丹グループは、映画「世界から猫が消えたなら」の公開に合わせ、チャリティキャンペーンを開催し、映画に登場する二匹の猫「レタス」と「キャベツ」のマスコットを全国のT O H Oシネマズ（一部劇場除く）、三越伊勢丹グループ28店舗でチャリティ販売を開始いたしました。（※1）

また今回は 若い女性やカップルからも関心を持っていただけるよう 縁結びの神様として尊信を集める浅草・今戸神社で特別にご祈祷していただき、「お守りレタス・お守りキャベツ」として販売いたしました。

チャリティ販売の利益金は「一般財団法人 クリステル・ヴィ・アンサンブル」を通じて、日本の犬猫の殺処分、放棄、虐待行為ゼロを目指す活動に役立てられます。また、チャリティ金の一部は、この度の熊本地震を受け、日本赤十字社を通じて被災地の支援に役立てさせていただきます。

キャンペーン実施にあたり、5月9日、東宝株式会社 代表取締役社長 島谷能成、一般財団法人クリステル・ヴィ・アンサンブル代表 滝川クリステル氏、株式会社三越伊勢丹ホールディングス 代表取締役社長執行役員 大西洋氏の3者がともに記者会見を行いました。



※1 三越伊勢丹グループ各店では5月9日、TOHOシネマズでは5月14日より販売開始。なくなり次第終了。

東宝グループは
創業者小林一三の言葉
「朗らかに、清く正しく美しく」
「吾々の享くる幸福はお客様の賜ものなり」の
理念のもと
社会的責任を果たし
企業価値の向上に努めてまいります



【本件に関するお問合せ先】
東宝株式会社 総務部 広報・IR室
TEL 03-3591-1303

本資料にて開示されているデータや内容は、本資料発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。したがって、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。